(19)日本国特許庁(JP)　**(12)登録実用新案公報(U)**　(11)登録番号
実用新案登録第3247671号
(U3247671)

(45)発行日　**令和6年7月30日(2024.7.30)**　(24)登録日　**令和6年7月22日(2024.7.22)**

(51)国際特許分類　　F I
Ｂ６５Ｄ　81/36　(2006.01)　　Ｂ６５Ｄ　81/36　　Ｊ

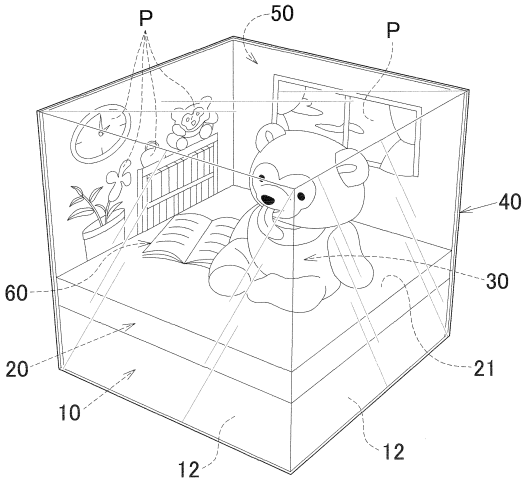
評価書の請求　未請求　請求項の数　5　　ＯＬ　（全8頁）

(21)出願番号　実願2024-1726(U2024-1726)
(22)出願日　令和6年5月29日(2024.5.29)

(73)実用新案権者　524139390
廣川株式会社
大阪府大阪市天王寺区玉造本町８番３号
(74)代理人　100119725
弁理士　辻本 希世士
(74)代理人　100168790
弁理士　丸山 英之
(72)考案者　森 幹仁
大阪府大阪市天王寺区玉造本町８番３号
廣川株式会社内

(54)【考案の名称】　食品用容器

(57)【要約】　（修正有）
【課題】置物として使用しても蓋に取り付けられた造形物に塵や埃などが堆積して汚れることがないようにし、他の物品が衝突してもその造形物が傷つくことを大幅に低減することができる食品用容器を提供する。
【解決手段】食品を収納する有底筒状の容器本体１０と、容器本体１０の上側の開口部を開閉する蓋部２０と、蓋部２０において、容器本体１０と対向する面と反対側の面である天面２１に着設された造形物３０と、容器本体１０、蓋部２０、及び、造形物３０を、中空状の内部に包摂して収納する透明のケース４０を備える。
【選択図】図１



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
食品を収納する有底筒状の容器本体と、
前記容器本体の上側の開口部を開閉する蓋部と、
前記蓋部において、前記容器本体と対向する面と反対側の面である天面に着設された造形物と、
前記容器本体、前記蓋部及び前記造形物を、中空状の内部に包摂して収納する透明のケースを備えることを特徴とする食品用容器。
【請求項２】
前記蓋部にて前記容器本体が覆設された形状が、略直方体又は略立方体のいずれかであり、前記ケースの形状が、略直方体又は略立方体のいずれかであり、
前記容器本体及び前記蓋部が前記ケースに内嵌していることを特徴とする請求項１に記載の食品用容器。
【請求項３】
前記容器本体と前記ケースの間に配設され、少なくとも前記蓋体の前記天面の上方に位置する、前記造形物と対向する内側面に、模様が付されたシートを備えることを特徴とする請求項１又は請求項２のいずれかに記載の食品用容器。
【請求項４】
前記ケースにおいて、少なくとも前記蓋体の前記天面の上方に位置し、前記造形物と対向する内側面に、模様が付されていることを特徴とする請求項１又は請求項２のいずれかに記載の食品用容器。
【請求項５】
前記天面において、前記造形物の近傍に着設され、前記造形物より大きさが小さい小物を備えていることを特徴とする請求項１又は請求項２のいずれかに記載の食品用容器。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、食品用容器に関し、例えばお菓子等の食品を収納し、その食品を取り出した後には置物としても使用することができる容器に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
お菓子等の食品を収納する容器であって、その食品を取り出した後に部屋などに置物として飾るなどして使用する容器が知られている。
【０００３】
そのような容器として、例えば、特許文献１には、上側に開口部を有する容器本体と、その開口部を着脱可能に閉鎖する蓋とを有し、その蓋の上面と下面のいずれか一方または両方に装飾物が設けられている蓋付き容器が開示されている。この蓋付き容器について、特許文献１には、蓋に着目してデザイン化し、視覚的に斬新なものであり、予め詰められたものを取り出した後には、お洒落なまたは可愛い雑貨として部屋に飾るような自分流の使い方が楽しめるという作用効果を奏することが記載されている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】実用新案登録第３２３２６５１号公報
【考案の概要】
【考案が解決しようとする課題】
【０００５】
しかしながら、特許文献１に記載の蓋付き容器においては、容器本体内部に収納されたお菓子などの食品を取り出した後に部屋に飾るなどして使用するとしても、蓋に設けられた装飾体に塵や埃などが堆積して汚れたり、その装飾体に意図せず他の物品などが衝突し

てその装飾体を傷つけたり蓋から外れて壊してしまうおそれがあった。
【０００６】
　このため、本考案は、上記課題に鑑みてなされたものであり、お菓子等の食品を収納し、その食品を取り出した後には置物としても使用することができつつも、置物として使用しても蓋に取り付けられた造形物に塵や埃などが堆積して汚れることがないようにし、他の物品が衝突してもその造形物が傷つくことを大幅に低減することができる食品用容器を提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
　〔１〕すなわち、本願に開示する食品用容器は、食品を収納する有底筒状の容器本体（１０）と、前記容器本体（１０）の上側の開口部（１１）を開閉する蓋部（２０）と、前記蓋部（２０）において、前記容器本体（１０）と対向する面と反対側の面である天面（２１）に着設された造形物（３０）と、前記容器本体（１０）、前記蓋部（２０）及び前記造形物（３０）を、中空状の内部に包摂して収納する透明のケース（４０）を備えることを特徴とする食品用容器である。
【０００８】
　〔２〕そして、前記蓋部（２０）にて前記容器本体（１０）が覆設された形状が、略直方体又は略立方体のいずれかであり、前記ケース（４０）の形状が、略直方体又は略立方体のいずれかであり、前記容器本体（１０）及び前記蓋部（２０）が前記ケース（４０）に内嵌していることを特徴とする前記〔１〕に記載の食品用容器である。
【０００９】
　〔３〕そして、前記容器本体（１０）と前記ケース（４０）の間に配設され、少なくとも前記蓋体（２０）の前記天面（２１）の上方に位置する、前記造形物（３０）と対向する内側面（５１）に、模様（Ｐ）が付されたシート（５０）を備えることを特徴とする前記〔１〕又は前記〔２〕のいずれかに記載の食品用容器である。
【００１０】
　〔４〕そして、前記ケース（４０）において、少なくとも前記蓋体（２０）の前記天面（２１）の上方に位置し、前記造形物（３０）と対向する内側面に、模様が付されていることを特徴とする前記〔１〕又は前記〔２〕に記載の食品用容器である。
【００１１】
　〔５〕そして、前記天面（２１）において、前記造形物（３０）の近傍に着設され、前記造形物（３０）より大きさが小さい小物（６０）を備えていることを特徴とする前記〔１〕又は前記〔２〕のいずれかに記載の食品用容器である。
【考案の効果】
【００１２】
　本考案に係る食品用容器によれば、お菓子等の食品を収納し、その食品を取り出した後には置物としても使用することができつつも、置物として使用しても蓋に取り付けられた造形物に塵や埃などが堆積して汚れることがないようにし、他の物品が衝突してもその造形物が傷つくことを大幅に低減することができる。
【図面の簡単な説明】
【００１３】
【図１】本考案の第一実施形態に係る食品用容器を示す外観斜視図である。
【図２】本考案の第一実施形態において、図１とは反対側から見た外観斜視図である。
【図３】本考案の第一実施形態において、ケースを取り除き、シートを容器本体及び蓋部から分離した状態を示す斜視図である。
【図４】本考案の第一実施形態における容器本体、蓋部、造形物などにおいて、容器本体と蓋部を分離した状態を示す斜視図である。
【図５】本考案の第二実施形態に係る食品用容器を示す外観斜視図である。
【考案を実施するための形態】
【００１４】

以下、本考案の実施形態に係る食品用容器を図面に基づいて詳しく説明する。なお、以下に説明する実施形態は、本考案を実施するのに好ましい具体例であるから、技術的に種々の限定がなされているが、本考案は、以下の説明において特に考案を限定する旨が明記されていない限り、この実施形態に限定されるものではない。

【００１５】

〈実施形態〉

以下に、図１から図５を参照して、本考案の実施形態に係る食品用容器を説明する。図１は、本考案の第一実施形態に係る食品用容器を示す外観斜視図である。図２は、本考案の第一実施形態において、図１とは反対側から見た外観斜視図である。図３は、本考案の第一実施形態において、ケースを取り除き、シートを容器本体及び蓋部から分離した状態を示す斜視図である。図４は、本考案の第一実施形態における容器本体、蓋部、造形物などにおいて、容器本体と蓋部を分離した状態を示す斜視図である。図５は、本考案の第二実施形態に係る食品用容器を示す外観斜視図である。

【００１６】

図１から図５に示すように、本実施形態の食品用容器は、飴、ガム、チョコレート、スナック菓子であるお菓子等の食料品を収納するものであり、容器本体１０と、蓋部２０と、造形物３０、ケース４０などを具備する。

【００１７】

容器本体１０は、食品を収納する有底筒状の部材である。本実施形態の容器本体１０は、図１から図５に示すように、収納した食品を出し入れするための上側に開口部１１を有している。開口部１１は蓋部２０によって塞がれることで、容器本体１０に収納されている食品が、容器本体１０から飛び出したりこぼれたりしないようになる。

【００１８】

本実施形態において、容器本体１０は、中央部分が窪んだ直方体形状である枡状の形状を有しており、蓋部２０により開口部１１が覆設されることにより、略直方体形状に形成されるが、他の実施形態において、略立方体形状、略三角柱形状、略五角柱形状、略六角柱形状、略八角柱形状、略円柱形状、略楕円柱形状、水平方向における断面が略星型若しくは略ハート型形状となる柱状とすることができる。このため、本実施形態において、容器本体１０の側面１２はそれぞれ矩形状である４つの平面であるが、他の実施形態において、容器本体１０の形状に応じて側面１２が他の矩形状、正方形状又は曲面状として形成される。

【００１９】

蓋部２０は、容器本体１０の上側の開口部１１を開閉する部材である。本実施形態の蓋部は２０、図１から図５に示すように、開口部１１より一回り大きく、開口部１１の外形状と同じ外形状を有している。この蓋部２０より、開口部１１がすべて覆われるので、上述したように、容器本体１０に収納されている食品が、容器本体１０から飛び出したりこぼれたりしないようになる。そして、図４に示すように、蓋部２０を取り外すことによって、容器本体１０に収納されている食品を取り出すことができる。図４において、食品は、個包装された飴を示している。

【００２０】

本実施形態において、蓋部２０は、容器本体１０よりも上下方向の厚みが薄く、外形形状が天面２１側から視認したときに略正方形状であるが、他の実施形態において、容器本体１０よりも上下方向の厚みが厚かったり、外形形状が天面２１側から視認したときに開口部１１の外形に応じて略矩形状、略三角形状、略五角形状、略六角形状、略八角形状、略円形状、略楕円形状、略星型若しくは略ハート型形状としたりすることができる。なお、蓋部２０の天面２１には、模様が付されていてもよい。また、本実施形態において、蓋部２０は、容器本体１０と物理的に別個の部材であるが、他の実施形態において、容器本体１０と一体化された部材であってもよい。

【００２１】

また、容器本体１０及び蓋部２０の材料として、スチール、合金アルミ、ブリキ、鉄な

ど又はそれらの組み合わせた金属や、板紙、厚紙などの紙であることが好ましい。

【００２２】

造形物３０は、蓋部２０において、容器本体１０と対向する面と反対側の面である天面２１に着設された部材である。造形物３０は、実在する又は架空の人、動物又は物品及び観念から形作られた物品である。例えば、造形物３０は、小説、漫画、アニメ、童話、映画、ゲームなどの物語や作品に登場する人物、動物や空想物などであるキャラクターなどである。本実施形態の造形物３０は、図１、図５に示すように、クマやリスなどの動物を模したキャラクターである。このような造形物３０が設けられていることにより、容器本体１０からお菓子等の食品を全て取り出した後でも、部屋や玄関などに載置しておき、容器本体１０及び蓋部２０を台座として置物としても使用することができる。なお、造形物３０は、蓋部２０の天面２１に接着剤や固定ピンなどの連結材を介して固着されている。

【００２３】

また、造形物３０の材料として、造形物３０の外形形状に応じて種々選択することができるが、成型しやすいことなどから軟質又は硬質樹脂、金属、紙などであることが好ましい。

【００２４】

ケース４０は、容器本体１０、蓋部２０及び造形物３０を、中空状の内部に包摂して収納する透明の器である。ケース４０により、図１、図５に示すように、容器本体１０からお菓子等の食品を全て取り出して置物としても使用するときに、透明であるため外部から造形物３０を視認することができるとともに、造形物３０に塵や埃などが堆積して汚れることがないようにし、さらにヒトの手や鞄などの他の物品が造形物３０に衝突してもその造形物３０が傷つくことを大幅に低減することができる。そして、本実施形態のケース４０は、略立方体状の形状を有しており、容器本体１０及び蓋部２０がケース４０に内嵌している。また、ケース４０の底部において、容器本体１０及び蓋部２０などを出し入れすることができるように、開口可能に蓋が設けられている。

【００２５】

本実施形態において、ケース４０は、略立方体状の形状を有しているが、他の実施形態において、略直方体形状、略三角柱形状、略五角柱形状、略六角柱形状、略八角柱形状、略円柱形状、略楕円柱形状、水平方向における断面が略星型若しくは略ハート型形状となる柱状とすることができる。ケース４０は、例えば、本願の食品用容器を搬送中にケース４０内にて容器本体１０及び蓋部２０が動きにくいようにして造形物３０の破損などを防止するために、容器本体１０及び蓋部２０の形状に応じて、容器本体１０及び蓋部２０を内嵌することができる形状とすることが好ましい。

【００２６】

そして、本実施形態において、ケース４０は、全体的に無色透明であるが、他の実施形態において、外部から造形物３０を視認できる限りにおいて有色透明とすることができるし、ケース４０内に容器本体１０及び蓋部２０が収納されている状態で蓋部２０の天面２１より上方が無色透明であり、天面２１より下方が不透明とすることもできる。すなわち、ケース４０は、外部から造形物３０を視認できるように少なくとも一部が透明であればよい。

【００２７】

また、ケース４０の材料として、外部から造形物３０を視認可能であり、造形物３０の汚れを防ぎ、造形物３０への衝撃を緩和するために、比較的薄く形成されながらも立設可能であるポリエチレン、ポリプロピレン、ポリエチレンテレフタレート、ポリアクリル、ポリカーボネートなどの樹脂、ガラスなどであることが好ましい。

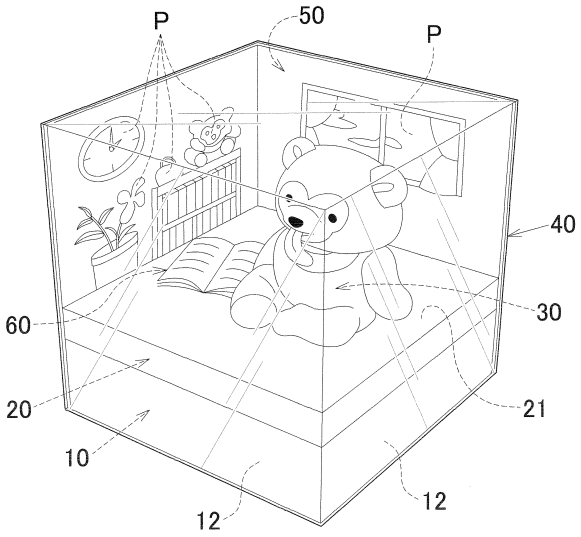
【００２８】

シート５０は、容器本体１０とケース４０の間に配設され、少なくとも蓋体２０の天面２１の上方に位置する、造形物３０と対向する内側面５１に、模様Ｐが付された厚みが数ｍｍ程度である紙状の部材である。シート５０により、造形物３０をより情景的に展示することでき、造形物３０と相俟ってジオラマのように展示することができる。

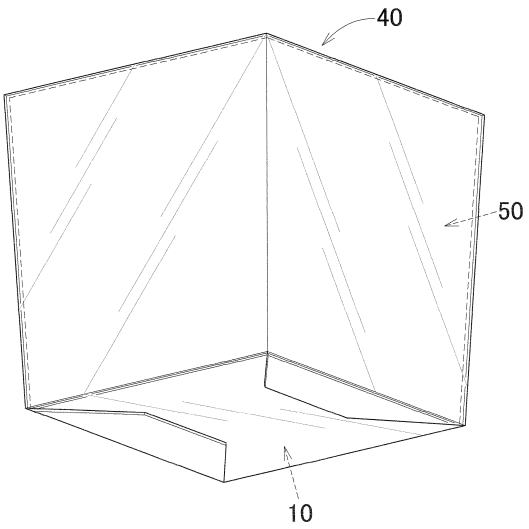
【００２９】
本実施形態において、シート５０は、図１、図３、図５に示すように、略Ｌ字状に折り曲げられた状態の厚紙であって、容器本体１０における２面の側面１２とケース４０の間に配設されているが、他の実施形態において、容器本体１０における１面の側面１２とケース４０の間に配設されていたり、容器本体１０における３面の側面１２とケース４０の間に配設されていたりしてもよい。
【００３０】
また、シート５０の内側面５１に付された模様Ｐとしては、日用品、自然物、人工物、幾何学模様、若しくはそれらの組み合わせなど種々の模様とすることができる。本実施形態において、蓋体２０の天面２１の上方であるシート５０の内側面５１に付された模様Ｐとして、図１、図５に示すように、部屋の内部や森の中などが描かれている。また、シート５０において、ケース４０内に容器本体１０、蓋部２０及びシート５０が収納されている状態で、少なくとも内側面５１のうち１つの面に、少なくとも蓋部２０の天面２１より上方にシート５０の模様Ｐが付されていることが好ましい。
【００３１】
本実施形態において、模様Ｐは、シート５０の内側面５１に付されているが、他の実施形態において、造形物３０と対向するケース４０の内側面又はケース４０の内天面の少なくとも１面に付されていてもよい。
【００３２】
小物６０は、蓋部２０の天面２１において、造形物３０の近傍に着設され、造形物３０より大きさが小さい部材である。小物６０が造形物３０の近傍に着設されていることにより、さらに情景的に展示することでき、造形物３０と相俟ってよりジオラマのように展示することができる。
【００３３】
小物６０としては、造形物３０やシート５０の模様Ｐと関連性を有する物品又は関連性を有しない物品を模して作成された物であることが好ましい。例えば、本実施形態において、小物６０は、図１、図５に示すように、シート５０の模様Ｐと関連性を有する本やリンゴなどとして成形されている。なお、小物６０は、造形物３０と同様に、蓋部２０の天面２１に接着剤や固定ピンなどの連結材を介して固着されている。
【００３４】
また、小物６０の材料として、造形物３０と同様に、小物６０の外形形状に応じて種々選択することができるが、成型しやすいことなどから軟質又は硬質樹脂、金属、紙などであることが好ましい。
【００３５】
以上、図１から図５の各図面を参照しながら本考案の実施形態を説明した。但し、本考案は、上記の実施形態に限られるものではなく、その要旨を逸脱しない範囲で種々の態様において実施することが可能である。
【符号の説明】
【００３６】
１０・・・容器本体
１１・・・開口部
１２・・・側面
２０・・・蓋体
２１・・・天面
３０・・・造形物
４０・・・ケース
５０・・・シート
６０・・・小物
Ｐ・・・模様

【図面】

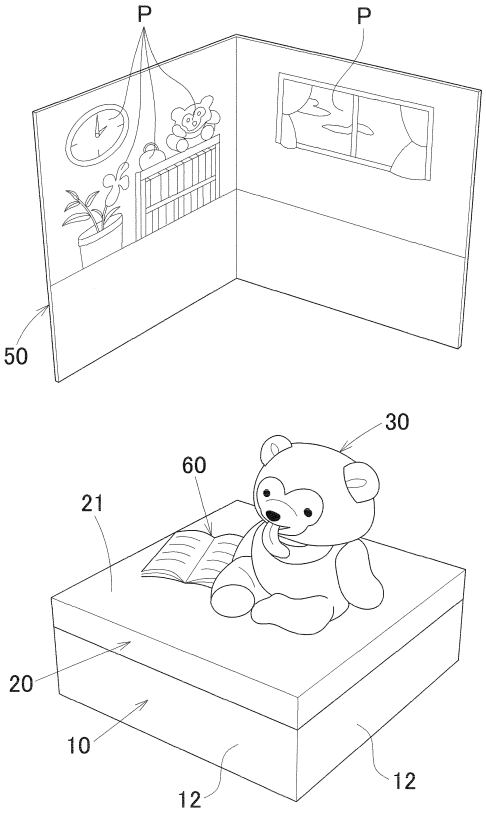
【図１】


P
50
P
40
60
30
20
21
10
12
12

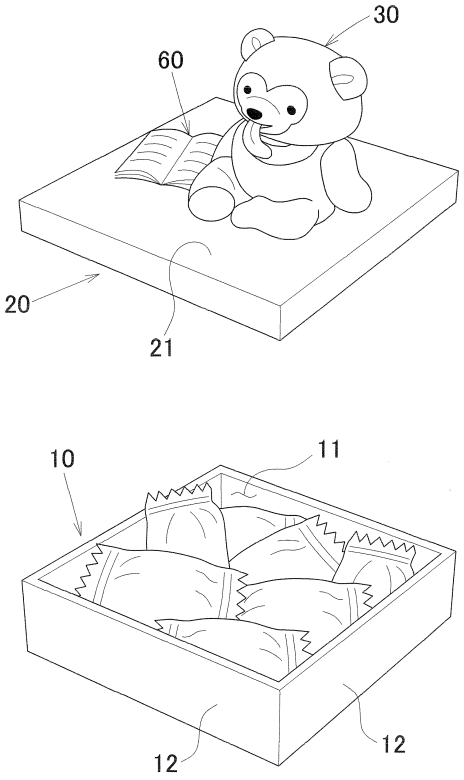
【図２】


40
50
10

【図３】


P
P
50
30
60
21
20
10
12
12

【図４】


30
60
20
21
10
11
12
12

【図５】

